

2008 東アジア国際学術フォーラム「東アジア伝統芸能の世界」

実行委員長 阿部 泰記

大学院東アジア研究科・人文学部・文学会では平成20年11月15日(土)に山口大学大学会館において東アジア国際学術フォーラムを開催しました。

日本からは山口県立大学稲田秀雄教授の解説で、山口鷲流狂言保存会による「首引」を上演していただきました。「首引」は鎮西ゆかりの者と称する武者がきらびやかな衣服をまとって登場し、鬼たちを翻弄する話です。鬼狂言で鬼たちはみな仮面をかぶって登場します。山口狂言保存会の方々の朗々と語られる言葉が館内に響き渡りました。衣服や仮面は特別に製作されたものです。山口県無形文化財保持者の米川文明氏と保存会の皆さんの演技がとても印象的でした。

韓国からは全羅道光州広域市文化財委員の姜炫求氏の解説で、金鐘福氏のパンソリと伽椰琴、洪英氏の鼓の伴奏でパンソリ「春香歌」と短歌「四季の歌」を上演していただき、洪英氏にテグムの吹奏をしていただきました。申在孝(1812~1884)はパンソリの名優を中国の李白や杜甫にたとえてその芸術を高く評価しました。金鐘福氏や洪英氏はそうした19世紀の名優たちの後輩だと言えましょう。光州広域市文化財委員の姜炫求氏による最初のワークショップはパンソリ理解を助ける楽しい場面でした。

台湾からは中興大学林仁昱教授の解説で、洪瑞珍唸歌団の鄭美氏が「七字調」で、葉文生氏が「勸世調」でご挨拶され、その後、楊秀卿氏が「ナタ太子東海を騒がす」、王玉川氏が「勸孝歌」を上演していただきました。唸歌は歌い手が月琴を弾き、大広弦の伴奏で上演する歌物語です。「ナタ太子東海を騒がす」は『封神演義』の物語で、道教の魔法の武器で龍王と戦ったナタ太子は台湾人に信仰されています。国宝級の芸人さんによる渋い語りは格別でした。

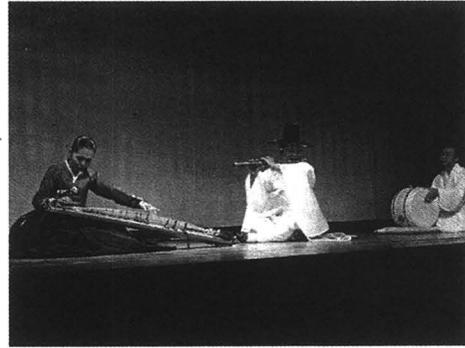
各地の抜群に優れた上演は観客を魅了し、200席ある大学会館はほぼ満席となりました。また出演された各地の皆さんも山口大学の招待に対して心から喜んでおられました。



山口鷲流狂言「首引」



韓国パンソリ「春香歌」



テグムの吹奏と伽椰琴、鼓の伴奏



台湾唸歌「開場」



「勸世歌」



「哪吒鬧東海」